

授業科目                      家族関係論

【担当教員名】 米林 喜男	対象学年	1	対象学科	社会
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】  
人間にとって最も身近な社会集団である家族の形態と機能の変化を理解し、多問題家族への福祉援助の仕方の基礎となる知識を身につける。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 家族は社会生活の基礎的な単位であることを説明する。
2. 過去の家族と現代の家族の異同を列記する。
3. 家族の変貌が人間に及ぼす影響を指摘する。
4. 家族の生活設計と保健・医療・福祉との関係を述べる。
5. 社会問題としての家族問題を調べる。
6. 患者・障害者の在宅ケアとケアマネジメントの課題を分析する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	家族とは何か。人間家族成立の3つの前提とその動向	1	板書ならびに配布資料に基づく
2	多様化する結婚、晩婚、非婚、配偶者の選択（夫婦関係論）	2	講義の受講と質疑応答
3	縮小する家族機能 - 4人の学説を参考に -	2	
4	前近代、近代、現代の各社会における家族の特徴	2	
5	直系家族の典型としての日本の家（イエ）制度とそこでの人間関係	2	
6	老親介護とその介護機能の変化（老親と子の協力関係）	3	
7	変わる出産環境と進む育児の社会化（夫婦の共同課題である出産と育児）	3	
8	少産少死時代の親子関係（親子関係論）	4	
9	家族のライフサイクル（生活周期）と各段階の発達課題（家族の発達課題）	4	
10	健康破綻の場としての家族 - 増加する各種の家族解体 - （現代の家族問題）	5	
11	健康破綻の場としての家族 - 増加する各種のファミリーバイオレンス - （家族福祉と社会福祉）	5	
12	家族と医療化	6	
13	家族・親族ネットワークと専門職・ボランティアネットワーク（在宅ケアとネットワーク）	6	
14	家族の4つの未来像	1	
15	まとめ		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	特定のものを使用しない。			
参考書	随時紹介する。			
その他の資料	必要に応じて印刷教材を配布する。			

【評価方法】 記述式の筆答試験を行う。 なお、原則として授業時数の2/3以上の出席により受験資格を得る。	【履修上の留意点】 家族は最も身近な共同生活の単位であるから、自分の家族生活の体験を客観的に検討し、家族を科学的に研究することをめざして主体的に学習してほしい。
--	---

社会福祉学  
科  
専  
門